三田で生き残った絶滅危惧種ニッポンバラタナゴ~二枚貝に卵をうむ魚~

谷本卓弥・松島修・山口達成・田中竹実・原智晃・太古数馬・高石悠生・水谷信彰 (ひょうご北摂タナゴ研究会)

ニッポンバラタナゴ (コイ科タナゴ亜科) 以下「ニッパラ」



(英) 日本固有亜種

- 天<mark>然分布</mark>は琵琶湖、淀川水系以西 の瀬戸内地域~九州北部に広く生息
- 現在は限られた地域のみ生息する 絶滅危惧種 環境省カテゴリ:絶滅危惧 I A類 (CR)

■絶滅危惧種になったおもな理由

⇒亜種タイリクバラタナゴ

- との交雑 1940年代にソウギョなどに混じって
- 中国から移入
- 現在は北海道~沖縄まで全国に分布 ・容易にニッパラとの交雑個体ができる
- ・交雑個体は外見では判別が難しい

ニッパラの現在の生息地



■タナゴの生活史⇒ニ枚貝に産卵、貝の中でふ化



■調査池の自然環境



■調査目的

本種は絶滅危惧種であるがゆえ、生態的な基礎研究が不足している。 現在の生息池におけるニッパラの生活史や食性、二枚貝の生態などを調査研究することにより、本種の保全やビオトープ池への移入に寄与す ることが本調査の目的である。

調査方法

(1)ニッパラの生活史・個体群の齢構成

①ため池5カ所に定点を設け1回/月モンドリトラップを30分間 ②捕獲個体の標準体長測定、雌雄の判別等を行う





(2)ニッパラの食性調査

- ①各回で捕獲した数個体を10% ホルマリン固定し、後日消化 管内容物を同定する
- ②池水および底層の動植物プラ ンクトンを採取・同定し、消 化管内と比較する



- (3)二枚貝の生活史調査 ①ため池の長径に沿った2本のライン上、左右Imの範囲で二枚 貝を素手で採取
- ②種を同定し個体数や殼長を計測後、殼に油性インクで識別番 号を記し放流

ちゃむしが流 (4)ため池の水質など無機的環境調査 水温・pH・COD・電気伝導度等の水質測定





[調査結果および考察] (解析途中) (1)ニッパラ捕獲数の推移と水温

各月の水温と捕獲数

・水温 4.9℃~31.3℃ ・7~9月の夏季に活性が高 くなるが、2021年11月12 月は水温10℃以下にもか かわらず活性が高かった。 春季の捕獲数が少ない →繁殖期?

(2)月ごとの標準体長 (SL) 分布



・標準体長の最大値は49.0mm

生後1年で20mm前後に成長し その年の晩秋には30mm前後 になる。(2021年7月/11月、 2022年7月/11月グラフより) 生後2年目の春には34~38mm に成長し、夏以降順次死滅 していく。40mm以上の個 体が秋以降も生存するが翌 年春にはほぼみられない。

ニッパラの寿命は約2年

J... alla.

*方法(2)食性調査、(3)二枚貝の生活史 については今後解析を行う予定

今後の課題

- ニッパラ、二枚貝の幼若個体の捕獲ができていない
- ・データの統計処理が必要